

現場
方を強める

小
集団
活性化

全員参加の活動で成果をあげる 小集団活動を原点から見直そう

小集団活動は、トップダウンの方針にもとづいて、小集団のボトムアップの活動を通して改善の成果をあげるための取り組みと言えます。したがって、小集団活動は現場の問題解決の実践としてきわめて重要な意味を持ちます。

同時に、全員参加によって取り組むために、現場全体の力を底上げする点が重要です。自主的に活動が推進されるところから、参加するメンバーの能力開発につながり、モチベーションのアップにつながります。

このような小集団活動の特徴から、多くの企業に広く普及し大きな成果をあげています。しかし、このような小集団活動もいま大きな問題をかかえています。活動の停滞やマンネリ化などの問題点が指摘されるようになりました。小集団活動の活性化のために、いま新たな視点や方策が強く求められています。

このテキストは、小集団活動の現状を直視し、もう一度活動の原点を踏まえて、新たな展開につながる方策を提供するために編纂されました。第Ⅰ部では、一人ひとりが主役になって小集団活動を実践するための運営方法を中心にまとめてあります。ここでは、小集団活動の意義や目的をよく考えてみるのが大切です。また、リーダー、メンバーの双方の果たす役割についても詳しく述べています。

第Ⅱ部では、QCストーリーによる小集団活動の展開の仕方を説明します。小集団活動による問題解決のすすめ方の基本をよく理解してください。さらに、成果のまとめ方や発表の仕方にも触れています。小集団活動は多様化していますが、その底流にある原則を踏まえた活動を展開することが、活性化のポイントと言えるでしょう。

目次

はじめに	3
第Ⅰ部 一人ひとりが主役になる小集団運営のすすめ方	5
第1章 現状を打破する小集団活動に取り組もう	6
1. 小集団活動の現状を見直そう	6
2. 小集団活動のマンネリ打破のカギは何か	8
3. 困った事実から学び、考え、行動しよう	10
4. 活発な議論ができるチームをつくろう	12
5. 学び合い、教え合う風土をつくろう	14
6. 仕事に役立つ面白い活動をしよう	16
第2章 知恵を引き出す小集団運営をすすめよう	18
1. チーム編成を工夫しよう	18
2. 価値ある目標を設定しよう	20
3. 良いテーマの選び方のコツ	22
4. 小集団活動におけるリーダーとメンバー	24
5. 小集団運営とPDCAのサイクル	26
6. 成果があがる会合のすすめ方	28
第3章 全員参加の活動で大きな成果をあげよう	30
1. リーダーの役割を果たそう	30
2. 会合で活発に議論しよう	32
3. メンバーの意見を引き出そう	34
4. チームワークで相乗効果をあげよう	36
5. 問題解決にリーダーシップを発揮しよう	38
6. やっていいこと、やってはいけないこと	40
7. メンバーにはメンバーの役割がある	42
8. 役割を交代し能力アップを図ろう	44
* 研究課題	46
第Ⅱ部 モチベーションを高める小集団活動の展開の仕方	47
第1章 小集団活動で職場の問題を解決しよう	48
1. QCストーリーによる問題解決の仕方	48
2. 解決すべき問題を発見しよう	52
3. はっきりわかる目標を設定しよう	54
4. 現状を把握し真の原因を探ろう	56
5. 問題解決のために知恵を出し合おう	58
6. 対策案を実施してみよう	60
7. 活動の成果を確かめよう	62
8. 活動の成果を定着させよう	64
第2章 成果のまとめ方と発表の仕方を工夫しよう	66
1. 活動結果を報告書に残そう	66
2. 活動結果を冷静に振り返ろう	70
3. 活動の成果を見えるようにしよう	72
4. 活動の成果を発表しよう	74
5. 説得力のあるプレゼンテーションの仕方	76
6. 発表会のやり方を工夫しよう	78
7. ステップアップのための勉強をしよう	80
8. 新たな小集団活動の展開が必要に	83
* 研究課題	85
(参考) 問題発見のためのチェックリスト	86

第Ⅰ部

一人ひとりが主役になる 小集団運営のすすめ方

1

現状を打破する 小集団活動に取り組もう

1. 小集団活動の現状を見直そう

(1) 維持と改善

維持

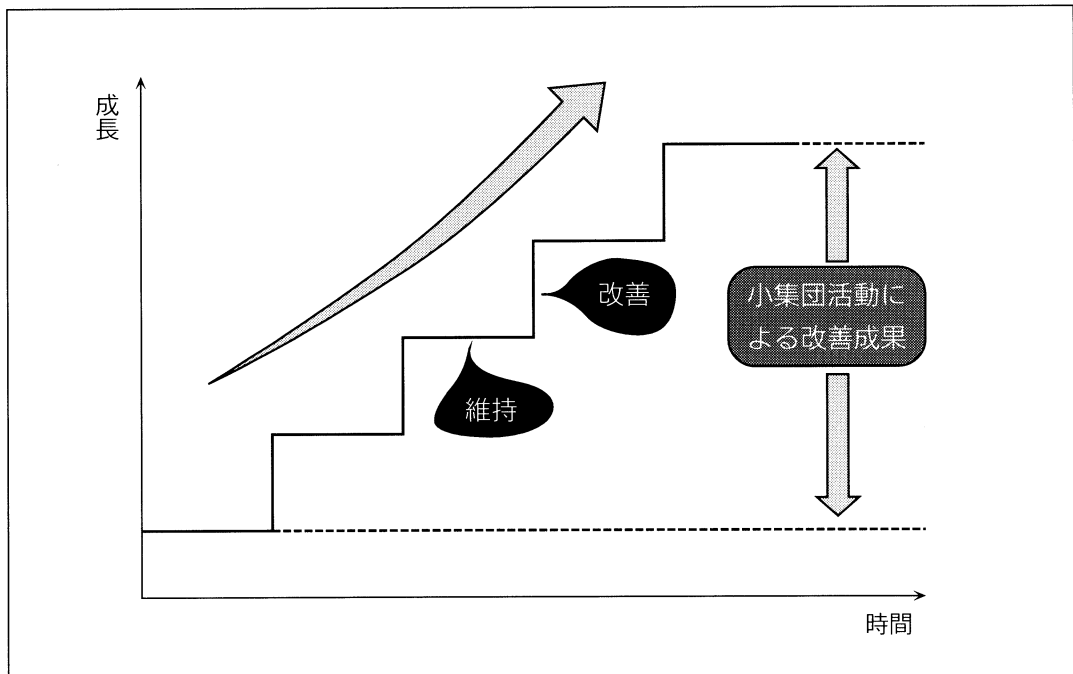
改善

会社が成長し、発展するためには、いまの状態をきちんと**維持**する活動と、現状をさらに良くするために**改善**する活動が必要です。図表 I・1 に示すように、会社の成長・発展は維持と改善の繰り返しであり、階段を一步一步登るようなステップ・バイ・ステップの活動が大切です。

- 維持…決められたことをきちんと守ることであり、基準や標準から逸脱しないようにすること
- 改善…現状を打破することであり、変化をつくり出すこと。基準や標準を変更すること

小集団活動

維持と改善は、一見矛盾するようですが、いずれが欠けても成長・発展を続けることができません。この2つの活動は、管理の対象でもあります。多くの会社では現場における改善は**小集団活動**によって具体的に展開しています。



図表 I・1 成長・発展のパターン

(2) 小集団によって取り組まれている活動

小集団活動によって取り組まれている主な改善活動はさまざまです。名称は別にして、代表的なものをあげると、次のようになります。

- 「QC」⇒「TQC」⇒「TQM」
(QCサークル, ZD運動, JK(自主管理)活動)
- 安全, 5S, 原価低減(CD), 生産革新, TPM
- ISO(品質・環境・安全)の一部

小集団活動は、もともと**QCサークル**がその出発点になっており、品質に関する改善活動が中心になってきました。現在では**TQC**さらに**TQM**と進化しています。

QCサークル

TQC
TQM

さらに、小集団活動は品質をテーマに取り組むだけでなく、安全や原価低減、生産革新、TPMなどの活動にも広がっています。また、ISOに取り組むときにも、その一部が小集団活動の中で展開されるケースをよく見かけます。いずれにしろ、こうした多様な小集団活動の現状がどうなっているか、よく見極める必要があります。